
血管平滑筋細胞における炎症性遺伝子転写抑制
因子のクローニング

16590877

平成16年度 ～ 平成17年度科学研究費
補助金（基盤研究（C））研究成果報告書

平成18年 6月

研究代表 西尾善彦
滋賀医科大学医学部講師

はしがき

動脈硬化病変の形成には炎症反応が重要な役割を果たすことが明らかにされている。我々はインスリンが培養平滑筋細胞において炎症性サイトカインである monocyte chemoattractant protein-1(MCP-1)の発現を転写因子 C/EBP の核内発現増加を介して亢進させることを見出した。さらに C/EBP による MCP-1 遺伝子の転写調節には我々が過去に報告した調節部位以外に、プロモーター領域 -192 塩基から-124 塩基を介する調節が関与することを見いだした。本研究ではその調節領域の詳細とその機構を明らかにすることを目的とした。本研究の成果として C/EBP homologous protein の役割とその調節部位を特定することができた。

研究組織

研究代表者：西尾善彦（滋賀医科大学医学部講師）

交付決定額（配分額）

	直接経費	間接経費	合計
平成16年度	2,200,000	0	2,200,000
平成17年度	1,400,000	0	1,400,000
総計	3,600,000	0	3,600,000

研究発表

(1) 学会誌：Kodama KI et al. Bidirectional regulation of monocyte chemoattractant protein-1 gene expression at distinct sites of its promoter by nitric oxide in vascular smooth muscle cells. Am J Physiol Cell Physiol 289:C582-590, 2005

(2) 口頭発表：西尾善彦 高インスリン血症による血管障害機構、第49回日本糖尿病学会 (シンポジウム)、2006年5月26日

Sekine O et al. Increased Expression of CCAAT/Enhancer Binding Protein- α and - β and Monocyte Chemoattractant Protein-1 Genes in Aortas from Hyperinsulinemic Rats. 66th Scientific Sessions of American Diabetes Association, June 9-13, 2006

研究成果による工業所有権の出願・取得状況

なし

滋賀医科大学附属図書館



2005014900